

第57回全国スポーツ推進委員研究協議会

- 1 期 日 平成28年11月17日(木)～18日(金)
- 2 会 場 1日目<開会式、表彰式、講演、シンポジウム>
・サンドーム福井
2日目<分科会>
・【第1分科会】越前市文化センター 大ホール
・【第2分科会】鯖江市文化センター ホール
・【第3分科会】武生商工会議所会館 パレットホール
・【第4分科会】嚮陽会館 多目的ホール
- 3 主 催 スポーツ庁、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、福井県スポーツ推進委員協議会、福井県教育委員会、鯖江市教育委員会、越前市教育委員会
- 4 主 管 第57回全国スポーツ推進委員研究協議会福井県実行委員会
- 5 後 援 福井県 鯖江市 越前市
- 6 大会テーマ 「スポーツ文化の醸成と地方創生に向けて」

【11月17日(木)】

12:00～ <歓迎アトラクション> (福井農林高校郷土芸能部)



- 7 開会式 12:30～13:00
 - ①開会のことば 福井県実行委員会委員長(福井県スポ推協会長) 杉山 弘行
 - ②あいさつ スポーツ庁 スポーツ総括官 平井 明成
公益社団法人全国スポーツ推進委員連合会長 齊藤 斗志二
 - ③歓迎のことば 福井県副知事 石塚 博英
鯖江市長 牧野 百男
越前市長 奈良 俊幸
 - ④登壇者紹介
 - ⑤次期開催地挨拶 茨城県実行委員会副委員長 石島 邦行

表彰式 13:00～13:40 (富山県受賞者9名・1団体)

- ①文部科学大臣表彰 高橋 清(射水市) 齋木 壽美男(滑川市)
- ②全国スポーツ推進委員連合表彰
・優良団体表彰 射水市スポーツ推進委員協議会



<富山県表彰伝達式・情報交換会> 18:30~20:30 会場：福井パレスホテル



【11月18日（金）】

10 分科会 9:30~11:30 (第1~4分科会)

【第1分科会】 越前市文化センター 大ホール

テーマ：「地域住民のニーズに応じた魅力あるスポーツクラブを目指して」

コーディネーター：北海道教育大学教育学部岩見沢校 教授

山本 理人

発表者：新潟県・NPO 法人希楽々 ゼネラルマネージャー

渡辺 優子

愛知県・NPO 法人朝日丘スポーツクラブ 事務局長

三田 博司

福井県・NPO 法人せいきコミュニティースポーツクラブ ゼネラルマネージャー

四谷 憲夫



3つのスポーツクラブの取り組みが紹介されました。各スポーツクラブが地域のニーズに合わせて、放課後児童教室や商業施設を活用したイベントを開催するなど、地域との関わりの強さが良くわかる発表となりました。しかし、スポーツ推進委員との関わりではうまくいってないところが多いことがわかりました。スポーツ発展のためにも、お互いの役割を明確にして協力し合い、より良いスポーツ環境を作り上げていく必要があると強く思いました。

【第2分科会】 鯖江市文化センター ホール

テーマ：「生涯現役社会の実現に向けたスポーツ推進委員の役割」

～スポーツの力で健康長寿社会の実現～

コーディネーター：早稲田大学スポーツ科学学術院 教授

松岡 宏高

発表者：福井県・鯖江市健康福祉部健康課課長補佐 理学療法士

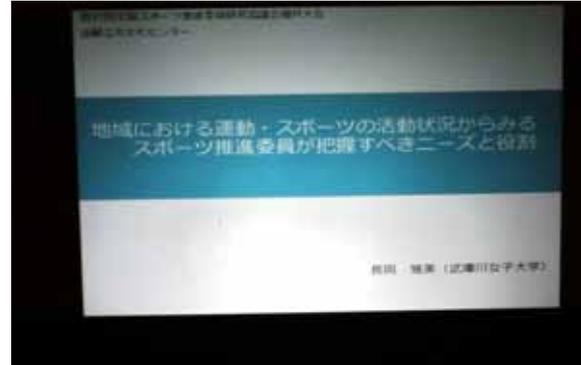
山本 進

兵庫県・福崎町スポーツ推進委員会 副委員長

長谷川つち代

武庫川女子大学短期大学部 准教授

長岡 政美



様々な立場から各取り組みが紹介されました。鯖江市では、出前健康体操教室を各年代に実施したことや、高齢者の転倒予防向け「ドドンパ体操」を考案し、SBE80！（SABAEの元気な80歳！）を結成したことで、今では様々なイベントから声がかかり、テレビ番組や雑誌取材などを受けることで市民の関心も非常に高まり、さらにAKB48との共演も果たしことでより注目を浴びているとのことでした。福崎町では、スポーツ推進委員の介護予防事業活動や保険事業活動への協働についての活動報告がありました。「高齢者・スポーツ推進委員・行政が連携し一体化できるように努め、高齢者が住み慣れた地域で役割を持ちながら、健康で自分らしい生活を送れる社会づくりに向けてより一層努力していかなければならない」との言葉が非常に印象に残りました。最後の発表では、スポーツ推進委員の役割として、活動のニーズ（個別、地域）をしっかりと把握し、スポーツの機会や環境の提供、スポーツの参加促進に向けたプログラムの提供をしていく必要があるとのことでした。その中でも、これまであまり積極的にスポーツを行ってこなかった人や運動経験が少なく体力がない人でも、運動やスポーツを楽しむことのできるプログラムを開発し提供することが重要であると提言されました。

【第3分科会】 武生商工会議所会館 パレットホール

テーマ：「障害者と垣根を超えたスポーツライフ」

～地域住民がともに楽しめるスポーツ環境～

コーディネーター：一般社団法人 東京都スポーツ推進委員協議会 顧問

阿部 正幸

発表者：高知県・一般社団法人 Uプロジェクト 代表

片岡 優世

新潟県・県障害者スポーツ協会 業務執行担当理事

丸田 徹

滋賀県・野洲市スポーツ推進委員協議会 会長

山本 博一



障害の有無に関わらず、地域住民が楽しめるスポーツ環境づくりをテーマに発表されました。地域との連携はもちろんのこと、障害者スタッフと一緒に組織づくりやイベントを立案・運営したり、障害者スポーツ協会・障害者交流センター・障がい者スポーツ指導者協議会の三者連携・協働のネットワークを推進したり、また地域SCが中心となり誰でも楽しめるバイキング（多種目）方式を取り入れ、障害児・者の共存を推進できる機会の提供に努力しているなど各地域で様々な取り組みがなされていました。

これからより障害スポーツを身近に感じ周りを取り巻く環境を整備するために、スポーツ推進委員が活動の中核となり、資格の取得、会場施設の有無・使いやすさ、普及情報発信不足等を見直しに努めてほしいと提言がありました。まだまだ障害（体形的・知的等）者スポーツの普及は浅いと感じたが、社会的な熱意は充実しつつ上昇してきていると感じられました。微力ながらも今回の研修を糧として今後の活動に繋げていきたいと思いました。

【第4分科会】 嚮陽会館 多目的ホール

テーマ：「新たなスポーツの普及・促進とスポーツ推進委員の役割」

～ニュースポーツを生かしたスポーツ人口の拡大～

コーディネーター：一公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合 専務理事	園山 和夫
発表者：福岡県・福岡市スポーツ推進委員協議会 南区委員長	篠原 徳弘
福井県・福井市スポーツ推進委員協議会 副会長	三反崎康子
世界ゆるスポーツ協会 代表	澤田 智洋



バスタボーとは、バドミントンダブルスコートを利用し、二人一組でバスタオルを広げてバレーボール放り投げるスポーツで、幼児から高齢者まで体力に関係なく楽しめ、笑いが起こるスポーツであり、複数のメディアに取り上げられていました。スティックリングは、マレットとゴルフの室内版であり、幅広い年代で出前講座を実施しており、学校や企業にも出向しているとのことでした。用具は、当初桜の木の廃材を利用して安価で実施することができましたが、現在は耐久性を高めるため様々な工夫がされたことから高価になってしまったとのことでした。ゆるスポーツとは、「年代・性別・運動神経・障がいの有無にかかわらず、誰もが笑いながら楽しめるスポーツ」ということでした。現在、50種類以上のスポーツを企業や大学などと協力・開発し、非常の多くのメディアからも注目されているスポーツでした。

※研究協議会には全国から約3,300名、富山県からはスポーツ推進委員及び市町行政担当者あわせて104名の参加がありました。2日間の有意義な研修で学んだことを地域でいかしていきたいと思ひます。